（一）　第674号　昭和27年9月25日第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和36年(1961)5月28日（日）

みいけ

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033 7140番
編集兼発行人　境　孜

「政治的暴力行為防止法案」の特集を二面に掲載しました。みんなで本質をつかみ、この悪法ふんさいへ結集しましょう。

五万人の大集会（高松）
七日には杵島でも大集会

第四回福岡県安保拡大幹事会は、五月十九日、六十六団体七十一名が出席当面の方針を討議決定した。そのさい、いまはげしく闘っている高松労組のある水巻町で、つぎのように県民集会をひらくことをきめた。この集会は不当合理化反対闘争・安保破棄の新らしい局面を切りひらくものとして大きな意味をもち、中央からも社・共両党の代表が参加し、総評・国民会議も代表をおくる予定である大牟田地区からも、三池労組からの三二五人をふくんで、大地評、社共両党、安保共闘会議、うたごえなどから約千人がバス十五台で参加する。

日時　六月四日（日）午前十時
場所　遠賀郡水巻町中学校
主催　県安保、県総評、中遠地区安保、県下四地区ブロック共闘（福岡、北九、筑豊、筑後）九炭労（申入れ中）
動員　中遠地区を中心とし、北九筑豊から大動員、その他の地区からも代表多数参加し総計五万人
議事　各組合、団体が共通の立場でたたかうことを確認するとともに、この大集会に引きつづき各地区毎にそれぞれのたたかいをつつんでゆくことを明らかにする。

杵島でも大集会

高松と同じく合理化反対で一カ月の無期限スト中の杵島労組のたたかいを中心に、佐賀県評が呼びかけて七千名の県民大集会を、六月七日杵島でひらくことになっている。

全員守る会に加盟
全日自労清水沢分会から激励とカンパ

全日自労夕張支部清水沢分会から分会全員の署名捺印した署名簿をそえて、カンパと激励の手紙が送られてきた。

この清水沢分会では、全員が三池を守る会に加盟して三池支援のためがんばっておられるということである。激励文にそえて九五名の氏名と住所を署名し捺印した名簿も送られてきている。

三池のたたかいをともにたたかってきた、全国各地の仲間たちは、われわれの闘いに注目し、絶えざる激励を送っている。われわれはしっかりがんばって団結を崩さずたたかいをすすめよう。

清水沢分会から送られてきた激励の手紙はつぎのようであるが、われわれもこの仲間たちにお礼の手紙を出し交流を深め合おう。住所は北海道夕張市清水沢全日自労夕張支部清水沢分会三池を守る会

激　励

三井三池炭鉱労働組合の皆さん

長期にわたる激しい合理化反対闘争は、一応終止符がうたれたような感を呈したのですが、炭鉱労働者の身辺には三池争議を起点とする企業合理化のあらしが吹きすさんでいる状態であります。

現在、三菱北炭などにも合理化が出て、大夕張では予定人員よりはるかに上回る数が、希望退職によってあらわれたのであります。かつて、北炭の萩原社長は「北炭は企業整備をしない。うちで掘っている炭は原料炭であるから、掘っても掘っても需要に間に合わぬ状態である」と言明している最中に、合理化案を出してきているのであります。

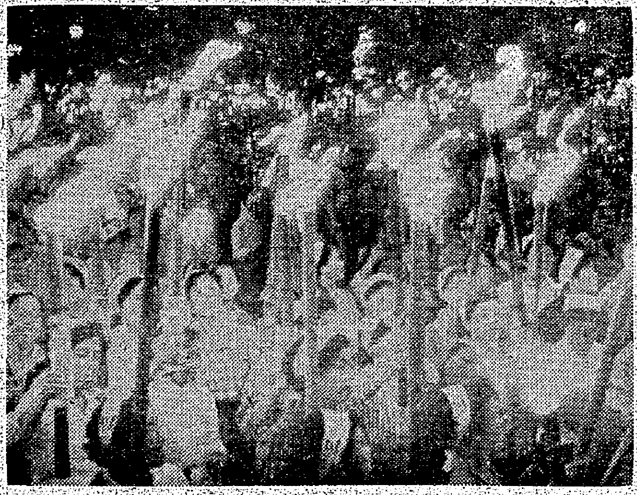
組合員の皆さん、退職された方の中にはすでに失業保険の受給が停止された方、また解雇された中には未だに復帰を願って法廷闘争をつづけている状態の方もあるとのこと、どうか困難を押し切ってがんばって下さい。全日自労夕張支部清水沢分会では、全員が三池を守る会に加入して三池支援のためがんばっております。

こんど幹事会で決定したことは月一回三池を守る会のニュースを発行し、市民によりいっそう理解していただくように決定しました。お多忙中恐縮ですが資料、機関紙等ご送付をお願いいたします。同封の五百円はさ少ですが郵送料のたしにして下さい。どうか労働者の幸福が訪れるようがんばって下さい。

最後に貴労組の繁栄を祈ります

一九六一年五月二十日
全日自労夕張支部
清水沢分会
三池を守る会

清水澤の仲間が送つた激励文と署名簿



才17次統一行動に立つ（35、5、26）

あれから一年（23）
燃え上る闘い
三池 安保 26日全国五百万が決起

安保と三池、三池と安保、ちょうど一年前の今ごろはこの二つが一つにとけ合って、たたかいはすさまじい勢いで燃えさかり日に日にはげしくもり上がり全国を覆っていた。

国会をとりまく国民のデモの渦は夜昼となくつづけられ、三池ではホッパーめざして連日オルグが全国からおしかけ、三池を守る会が野火のように全国に燃えうつり結成されていった。

当時の目まぐるしいたたかいの一日一日をのぞいてみると……

二十一日　大牟田市議会は緊急に安保粉砕の決議をした。東京の第一線で活躍している画家三名が三池を訪れ色紙展をおこない即売会の売上げをカンパされた。

二十二日　大牟田地区安保阻止の統一行動は「安保粉砕・三池支援」の街頭カンパ・署名運動をくりひろげ、カンパ九、七〇〇円と八八〇名の署名を集めた。

二十三日　全国税労組は全国五コースからリレー行進し代表三名が三池へ到着したが、各分会は行進の通過を機会に職場大会をひらき三池闘争を大きくもり上げた。本所ひまわり分会の老人たちがピケご苦労さんと激励に見えた。

二十四日　長洲で第二組合員を乗せたスト破りの人工島定期便をピケ隊は阻止、また三池楽団も町民に楽団演奏で交流をふかめた。

二十五日　追いつめられた会社側はしきりに挑発行為に出てきた。この日も長崎社宅に挑発の情宣をかけ、後ではハイヤー六台つらねたゴロツキどもまで応援に来た。

二十六日　第十七次全国統一行動。炭労は全山時限ストに突入した。この日、東京では二十万が決起し国会へデモ、全国で五百万が行動に立ち上った。大牟田では五千名が笹林公園に結集、大会後タイマツデモで警察を包囲した。

ホッパー下では「安保粉砕、三池勝利」の統一行動が、三川支部主催でピケ隊三千名が参加してひらいた。南新開で第二組合がまた暴行をはたらき、組合では再度にわたる暴行で、弁護団を通じて警察に厳重に抗議した。この日組合に入った情報ばかりでも、熊本電報電話局、熊本電通、西鉄労組青年部、大分県教育会館、熊本県民共闘で〃三池を守る会〃を結成した。守る会結成は連日あいついでいた。この日午後八時すぎ、いわゆる「たちばな事件」が起き、警官に守られた第二組合・暴力団が二名の組合員にかしの棒や投石でひん死の重傷を負わせた。

大牟田の街も、官製暴力団、私設暴力団の横行で、いよいよ暴力の町化していった。それだけ敵はあがいてきたのであった。

不当解雇提訴者同盟
発足にあたって

提訴者同盟事務局長　岩山喜久蔵

いま福岡地方裁判所で解雇無効の裁判がすすめられています。この裁判に直接参加している一七二名の提訴者が、去る五月十四日労働会館会議室で総会をひらきました。提訴者は「三池闘争不当解雇提訴者同盟」を組織し、会則と提訴者自から百円のカンパ金を出し合い、組合執行部の指導と緊密な連携のもとに、これからの法廷闘争を三池闘争の継続として大きく発展させることをきめました。

ご承知のとおり、三池闘争は安保とともに日本労働運動史上まれにみる大闘争になりました。しかし、いま私たちはきわめて困難な条件の中にたっています。例えば組織の切り崩し、差別攻撃、離職者の就職問題など私たちはきびしさにつつまれています。だが、たとえどんな困難な条件があろうとも、かつて私たちがたたかってきた貴重な経験を学び、その教訓を適用するならば、これらの困難を克服することもまた可能であると思います。

もちろん三池闘争はまだ終っていません。闘いはいぜんとしてつづいており、一七二名の法廷闘争もいまからです。提訴者同盟の結成はその法廷闘争を単に一七二名のたたかいだけでなく、一、二〇〇名の解雇無効をもふくめたたたかいとして推進する上で大きな意味があると思います。さらに三池の法廷闘争は不当な責任追及をゆるさぬたたかい、レッド・パージ官公労の大量処分反対闘争とともに、これからの合理化反対闘争と大きく結びつき発展する性格をもっております。私たち三池闘争不当解雇提訴者同盟は、この意味を十分理解し、組合員、主婦会はもちろん、全国の仲間とともに最後の勝利を得るまで闘うことをお誓いして、発足にあたっての皆さま方のご協力をお願いいたします。

なお港務支部旧井主婦会のカンパにたいし心から感謝いたします。

なお、提訴者同盟の主な役員はつぎのとおりです。

会長　蓮尾信次郎（宮浦）
副会長　古賀　正登（港務）
事務局長　岩山喜久蔵（三川）

みいけ日誌

5月22日　労働部長会議、予算委員会、本部役員会、政治局会議、西鉱連財政部長会議、公判＝福岡刑事三部（24日まで）、職対＝農場関係総会、住宅地調査

23日　教宣部会、大地評執行委員会、主婦会支部長会議、職対＝建材関係会議

24日　雄労連48時間スト突入、公判＝福岡刑事四部（25日まで）職対＝燃料販売所工事着工

25日　春闘第5次統一行動、炭労全山時間外職場大会、反動立法粉砕総決起大会（笹林公園で）、大手14社調査部長会議、九本支部代表者会議、職対＝住宅金融公庫交渉

26日　企画会議、二瀬第一波48時間スト突入

27日　主婦会学習会、職対＝荒尾職業訓練所第二回卒業式、訓練所で懇談会、職対会議

あわれな御用組合
＝炭労を離れた組合の末路＝

四山　M　生

われわれは、いつまでもいつまでも三池労組を守ろう。

私は五月十三日から十六日まで長崎県の鯛の島炭鉱に私用のために行きましたが、そこで私が見たり聞いたりして感じたことを少し書いてみたいと思います。

午前六時になると、昔を思い出す軍歌のメロデーが社宅全体に流れます。そして二十分から、その日の一番方出勤者の名まえが組合から放送されます。そして名まえを放送された者だけが仕事に出て行くのです。それ以外の者は、自分がどんなに仕事をしたいと思っても、その日は日曜と同じように休まなければなりません。そしてこのおしつけの休日にたいする補償はビタ一文もありません。二番方も同じように午後五時三十分から放送されます。

聞いてみると、この炭鉱は三年ほど前までは炭労さん下の組合であったそうですが、脱退したとたん（ひと月もせぬうちに）二交替にされています。二交替になって三交替のときより一千円ほど多い金受けだそうです。会社にたいしては何でも「ハイ、ハイ」で、からだの弱い人は、しらずしらずに炭鉱をやめていくようです。三日も無断で休もうものなら即時クビです。

医務（病人）については、私傷は三日です。四日目にまた診断を受け、医師が「君はよくなった。もうよい」というが、本人はまだ悪く、医師にもう三日休ませてくれと頼んでも「ダメダ」というそうです。こんな具合で、休んでも会社から毎日白い目でじろじろ見られ、これが原因でやめる人もあるようです。

こういう状態だから、ここには合理化・首切りはなく、ストももちろんありません。ただ、月々数多くの人が自分からやめるように仕組まれております。

社宅入居はどうかというと、会社に忠実な人、見こまれた人がさきに社宅にはいる。電気使用量は二十キロまで会社負担、超過すれば一キロについて十五円です。もっとも困るのは水道で、朝八時から三十分間、午後は三時三十分から四時三十分までで、それ以外は一滴も出ません。

なお、今にいたるも昔のように石炭が配給され、朝昼夕の一日三回は社宅の中は、発電所の中のように鼻をつまんで通るありさまです。電気炊飯器は、会社の許可なしには使用できません。これも、会社に見込まれた者だけに許可が出されます。

毎月の金受けが採炭で三万円あっても、そのうち三、四千円は会社のお偉方に出す酒代となるそうです。

このほかまだまだありますが、こんなことになったのも炭労を離れご用組合になったからです。

私たちは自分の足元をよく見ましょう。三池の第二組合もこの炭鉱のようになって来ています。私たちは団結を固くし、一日もはやく第二組合を無くし、三池労組本来の姿になるよう努力しなければなりません。

団結がんばろう！